

教育学部論集 第20号 (2009年3月)

- 学会名(原語表記) (第 XXIV 回 国際心理学会議) XXIV International Congress of Psychology
- 参加セッション名 Session: Poster, Topic: Social Psychology
- 発表題目 The Influence of Perceptual Self-mother Relations, Self-image, and Reflective Self-image from mother on Formation and Developmental change of Longnitioe Self Concept through Life.
- 大会期間(現地時間) 平成 20 年 7 月 20 日 (日) ~平成 20 年 7 月 25 日 (金) (ベルリン)

杉 田 千鶴子

知覚・認知的自己過程のダイナミックなシステムのモデルを提示することを本研究の目的とした。ある状況で覚醒され顕現化した自己はそのシステムの均衡に支障をもたらし、変化を余儀なくされる。記憶表象としての自己は、多面的様相を呈しているが、それらをシステム内要素として位置づけるとき、要素内部の様相や要素間連関のずれの程度を調べることによって、時空的に変化をくり返し発達する自己過程を観ることができるとの仮定を基に、ある時点での自己の姿との関係を明らかにする方法論を採択した。

被験者は英国人学生とその親であり、従来研究をもとに、欧米データとの比較に耐え得るよう、構築した質問票を使用した。知覚・認知の対象概念として、自分自身、再帰的自己のイメージを SD 法でデータ化した。各構成体としての概念はそれぞれが開かれた系であり、また、その連関も状況や環境に対応的、適応的に形成される。要素内処理過程において、自己イメージでは内向、外向の性格特性、活動性、意志力、ユニークさ、将来展望、等の変数群が、再帰的自己像では仕事への専念、気分の変化、慣習的で細やか、依存・固着性、外向的、等の変数群が見いだされた。性格変数、内向・外向性などに共通性があるが、評価的意味などの異なる変数に違いがみられた。要素間差異(ずれ)の調整と統合が、自己の過去の記憶表象との関係を規定していることがわかった。これらをまとめると、現在の生活への満足、充実感は低く、総じて葛藤をもち、ストレス気味である。個人ごとの関連性をとらえることで、その一部は臨床発達心理学からの所見にも耐え得ると考える。

Sugita, Chizuko [*International Journal of Psychology, Abstract, 2008, p299, (Claudia Dalbert Ed.); International Union of Psychological Science, Berlin, Germany に掲載。*]

学会名(原語表記) American Association for Adult and Continuing Education  
参加セッション名 国際成人教育部門会  
大会期間(現地時間) 平成20年11月9日(日)～平成20年11月14日(金)

## 西岡正子

第57回を迎えたアメリカ成人継続教育学会は全米最大の成人継続教育に関する学会である。今年度はデンバーにおいて180のコンカレントセッション、3つのジェネラルセッション、2つの部門発表会が6日間にわたり実施された。

今大会においては、「将来の創造」というキーワードのもとに、Richard Lamm コロラド州元知事による The Brave New World of Public Policy, Cornell University の Dr. Rosemary S. Caffarella による The Gift of Healing: Adult Learners in Times of Major Changes と題する基調講演が、また The Future of AAACE というテーマでパネルディスカッションが実施され、成人教育による将来の創造に関して活発な議論が交わされた。

コンカレントセッションは成人継続教育に関して、労働分野、高等教育機関等における研究からミリタリー教育、識字教育等様々な分野に渡り多くの研究発表が行われた。特に workplace learning においては、アクションリサーチが多くみられた。発表の審査は厳しく高いアカデミックレベルを維持しており、45分間の発表時間が与えられる上に会員同士が議論を重ねる時間が設けられている。

また筆者が発表した国際成人教育部門会議は3日間集中して実施され、フルペーパーの審査を経た各国の成人教育に関する研究が発表された。ユネスコの第5回国際成人教育会議で議論された文化や地域性に基づく成人教育の在り方について多くの示唆を与える研究発表が行われた。さらに2009年度5月にブラジルで開催されるユネスコの第6回国際成人教育会議におけるアメリカ成人継続教育学会からの提案の検討が行われた。

今後、学会全体でユネスコ第6回国際成人教育会議に向けて議論が高まっていくと思われる。